

令和 2（2020）年度以降入学者の科目履修について （令和 4（2022）年度以降編入学者を含む）

1. 卒業に必要な単位数

4年以上在学（3年次編入学者は2年以上）して、以下に定める単位を修得した人は、学士試験に合格したものと認められ、学士の学位が授与されます。

卒業に必要な単位数は140単位以上（3年次編入学者は学部科目84単位以上）です。そのうち全学共通科目は56単位以上、学部科目を84単位以上修得しなければなりません。

卒業論文（選択）の合格者には6単位が認められます。

全学共通科目については、以下の表に示すとおり修得しなければなりません。卒業までに修得すべき全学共通科目の単位数は、外国語科目群において英語を選択するか否かによって、修得すべき人文・社会科学科目群、外国語科目群及びE科目の単位数が異なります。

なお、全学共通科目の履修についての詳細は、『国際高等教育院HP』を参照してください。

全学共通科目	人文・社会科学科目群	英語を選択する場合 14単位以上 英語を選択しない場合 10単位以上	英語を選択する場合 32単位以上 （左記で各科目群が要求する最少の単位数の合計ではない。右記に従うこと）	英語を選択する場合 各科目群が要求する最少の単位数の合計28単位に加えて、外国語科目群を除く任意の科目群から4単位以上を修得すること。人文・社会科学科目群においては「外国文献研究（経・英）A・B」計4単位を含むこと。かつ、「外国文献研究（経・英）A・B」以外の任意の科目群のE科目4単位以上を含むこと。ただし、「外国文献研究（経・英）A・B」は計4単位を超えて修得することはできない。 （E科目については下欄の表を確認すること）
	自然科学科目群	8単位以上	英語を選択しない場合 24単位以上 （左記で各科目群が要求する最少の単位数の合計である）	
	情報学科目群	6単位以上		
	健康・スポーツ科目群			
	キャリア形成科目群			
	統合科学科目群			
少人数教育科目群				
	外国語科目群		英語を選択する場合 24単位以上 英語を選択しない場合 32単位以上	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語のうちから2か国語を履修すること。ただし、日本語は外国人留学生のみ選択することができる。 英語を選択する場合、「英語リーディング」計4単位、「英語ライティングーリスニングA・B」各2単位計4単位、計8単位修得すること。 英語以外の外国語（日本語を除く）を選択する場合、初級から8単位以上、中・上級から8単位以上、1か国語につき計16単位以上修得すること。 日本語を選択する場合、「日本語（上級）」「経済・経営日本語（上級）I・II」から計16単位を修得すること。
	合計		56単位以上	

E 科目	上記の単位数のうち 8 単位以上含むこと	外国語科目群で英語を選択する場合、「外国文献研究（経・英）A・B」から4単位、それ以外のE科目（科目群、E科目のカテゴリーは問わない）から4単位以上、計8単位以上を含めなければならない。
------	-------------------------	---

学部 科目	学部科目 84 単位以上（演習及び卒業論文の単位を含む）	
	入門科目及び専門基礎科目を以下のように定める。	
目	① 選択必修 A群（マイクロ経済学、マクロ経済学） 入門科目：マイクロ経済学入門、マクロ経済学入門 専門基礎科目：マイクロ経済学1、マイクロ経済学2 マクロ経済学1、マクロ経済学2	左記のA群の入門科目から1科目（2単位）以上、専門基礎科目から1科目（2単位）以上を修得すること。
	② 選択必修 B群（社会経済学、経済史、経済政策） 入門科目：社会経済学入門、経済史・思想史入門、現代経済事情 専門基礎科目：社会経済学、経済史、財政学、金融論	左記のB群、C群、D群から任意の2群を選択し、それぞれ入門科目から1科目（2単位）以上、専門基礎科目から1科目（2単位）以上を修得すること。
	C群（経営学、会計学） 入門科目：経営学入門、会計学入門 専門基礎科目：経営戦略、経営組織、経営財務、マーケティング1、会計学	
	D群（統計学、計量経済学、情報処理） 入門科目：基礎統計学、情報処理入門 専門基礎科目：計量経済学、経済統計学、意思決定論	
<p>経済学部科目の特殊講義科目・経済学部開講の法学部科目・他学部科目を合わせて20単位まで卒業単位に算入することができる。ただし、他学部科目については8単位までとする。</p> <p>なお、他学部科目を卒業単位に算入するには、「履修の仕方と単位の取り扱いについて」の(7)に従って所定の手続きをする必要があるが、経済学部開講の法学部科目についてはこの必要はない。ただし、他学部科目には、卒業単位に認められないものもある。</p>		
合計	84 単位以上	
総計	140 単位以上	

2. 全学共通科目の履修について

(1) 全学共通科目は全学年で修得できますが、なるべく1・2回生時点で修得することが望まれます。

3・4回生で修得しようとする場合は、全学共通科目と3・4回生配当学部科目との試験日時が重複する可能性があります。全学共通科目の履修登録単位数の上限は、1開講期につき26単位です。ただし、集中講義は履修登録単位数の上限には含まれません。なお、通年科目については、総単位数の2分の1が1開講期あたりの単位数としてカウントされます。

(2) 各群における指示事項

① 人文・社会科学科目群について

外国語科目群において英語を選択しない場合でも「外国文献研究（経・英）A・B」（2回生以上対象科目）は修得できますが、修得すべき全学共通科目の単位としては認めません。

② 自然科学科目群について

数学は経済学の学習に必要な不可欠な科目であるため、下記 a. の講義を履修することを強く推奨します。また、理系入試による合格者及び理論経済学・統計学を専攻する予定の学生は、理学部・工学部指定の数学の講義 b. を履修することを強く推奨します。数学の履修に関する質問があれば、入門演習の担当教員に相談することができます。

a. 数学基礎（経済学一般の学習に最低限必要な数学力の修得を目指す）

「数学基礎A・B（8単位）」を履修してください。

b. 理系用数学講義（理論経済学・統計学を専攻する上で最低限必要な数学力の修得を目指す）

「微分積分学（講義・演義）A・B（6単位）」「線形代数学（講義・演義）A・B（6単位）」を履修してください。なお、これらの科目は、特別履修の手続きが必要になりますので、所定の期間内に履修手続きを行ってください。

上記 b. を履修した学生は、引き続き「微分積分学続論Ⅰ・Ⅱ（4単位）」「線形代数学続論（2単位）」を履修することを推奨します。

③ 外国語科目群について

- 外国語科目において英語を選択するか否かによって、修得すべき人文・社会科学科目群、外国語科目群及びE科目の単位数が異なり、入学時の外国語選択届に従い事務処理が行われます。入学時に英語を選択していたが英語の選択をやめる場合、もしくは英語を選択していなかったが英語選択に変更する場合は、これに応じた事務処理を行う必要がありますので、全学共通科目学生窓口で変更手続きを行ってください。
- 「フランス語Ⅰ（8Hコース）」は16単位中8単位のみ、「ドイツ語Ⅰ（6Hコース）」「ドイツ語Ⅱ（6Hコース）」「フランス語Ⅱ（6Hコース）」は12単位中8単位のみ、修得すべき全学共通科目の単位として認めます。
- 「スペイン語Ⅰ（会話）」は、修得すべき全学共通科目の単位として認めません。
- 初修外国語の履修において、「初修外国語初級免除」の場合は、卒業に必要な単位数を中級以上で修得してください。なお、初級免除を受けた場合は、必ず教務掛へ申し出てください。

④ E科目について

- 外国語科目群において英語を選択するか否かにかかわらず、「外国文献研究（経・英）A・B」は4単位を超えて修得することはできません。他学部生も同様です。
- 「外国文献研究（経・英）A・B」は重複履修が認められます。例えば「外国文献研究（経・英）A」を4単位修得した場合、4単位とも、修得すべき全学共通科目の単位として認められます。ただし、同一科目かつ同一教員の科目の履修は避けてください。なお、「外国文献研究（経・英）A・B」は平成29年度から開講されます。
- E科目を修得すると、そのE科目が属する科目群の単位数としてカウントされます。したがってE科目を修得するほど、各科目群の要求する単位数を満たすことができます。また、そのため、E科目を8単位以上修得しながら、各科目群の要求する単位数を最少単位数で満たした場合、先の表に述べられている通り、7科目群で計32単位以上という要件を満たさないことに注意してください。
例 人文・社会科学科目群から、E科目「外国文研究（経・英）A・B」を4単位、その他E科目を4

単位修得しながら（E科目計8単位）、人文・社会科学科目群の単位数を最少単位数の14単位で満たし、かつ、他の6科目群の要求する単位数を最少単位数で満たしても、これらの合計単位数は28単位に過ぎません。

この場合、さらに任意の科目を7科目群の中から4単位以上修得する必要があります。

3. 学部科目の履修について

経済学部において、令和2(2020)年度入学者より学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、学部科目及び全学共通科目を合わせて30単位とし、全学共通科目の単位数の上限は26単位とします。

ただし、編入学により本学部に入学者及び本学部から転学した者を除きます。また、特に優秀な学修成果をあげたと認められた者やその他特別に必要があると経済学部長が認めた者は、上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることがあります。

特に優秀な学修成果をあげたものとは、直前の学期において、修得単位数が上限単位数の9割以上を修得し、GPA（計算の対象となる全ての科目）が3.6以上のものとする。認められた場合は、上限単位数を超えて10単位までの履修科目の登録を可能とする。該当する場合は別途申請が必要ですので、教務掛へ申し出てください。

上限単位数の対象となる授業科目は、卒業要件に算入することができる経済学部科目の特殊講義科目・経済学部開講の法学部科目・他学部科目を合わせて20単位を含めた全ての授業科目です。ただし、経済学部入門演習、授業期間外の集中講義科目、他大学等で履修する授業科目を除きます。

なお、通年開講科目については、その単位数の2分の1を1学期分の単位数として扱い、当該学期の履修登録単位数をカウントします。

経済学部は、GPA制度（47ページ参照）を導入しています。履修登録している科目のうち、GPAの算入対象科目の成績評価を算出します。また、受験しなかった科目については、最低評価を算出します。履修登録をする際は、履修登録単位数の上限を超えないよう必要な科目の履修登録をしてください。